

認定看護師の
活動について

災害派遣医療チーム DMAT (Disaster Medical Assistance Team) について

救急看護認定看護師 當田 晶子



救急看護認定看護師の役割の一つに災害時における急性期の医療ニーズに対するケアがあります。私は、2012年に日本DMAT隊員になりました。DMATは、災害発生時に、迅速に被災地に駆けつけ救急治療を行う役割があります。今回は、このDMATの活動内容などをお伝えしたいと思います。

DMAT誕生のきっかけ

1995年の阪神・淡路大震災で、災害現場での医療が大事だと認識されました。「一人でも多くの命を助けよう!」と厚生労働省により日本DMATが発足しました。今では、全国に14,204名(2019年3月末)の隊員がいます。

DMATの構成員

1チーム5名(医師、看護師、業務調整員)で構成されています。DMAT隊員になるには厚生労働省が実施する「日本DMAT隊員養成研修」を修了します。現在、当院にはDMAT隊員が14名在籍しており、資格を得た後も国や県の訓練に参加しています。



当院DMATメンバー



DMATの活動

DMATは都道府県等の派遣要請を受けて出動します。災害急性期から、災害現場での医療活動や病院支援、患者さんを被災地域外へ搬送する活動などを行います。2016年の熊本地震では、全国から約2000名のDMATが出動しました。当院からも医療活動に必要なものを持って2チーム(10名)のDMATが出動しました。

また、DMATは新型コロナウイルスの集団感染が起きたダイヤモンドプリンセス号へも派遣されました。急速拡大している新型コロナウイルスへの対応は災害レベルの状況と認識されつつあります。島根県では、県内の新型コロナウイルス患者の入院調整を行う島根県広域入院調整本部が設置されていて、DMATも参画しています。

浜田市で予測されている地震

浜田市では震度7の地震が起こることが予測されており、この地震が冬の5時に起きた場合、死傷者は1034人と想定されています(令和3年島根県地域防災計画より)。災害時、当院は地域の中心となって活動する必要があります。当院は災害発生時に速やかに対応できるよう院内の災害訓練や災害マニュアルの見直しを行っています。

災害発生時に一番大事なこと

まず、自分自身の身の安全を守ることが大切です。もしも地震が起きたら以下の3点を行いましょ。

- (1)机やテーブルに身をかくす
- (2)非常脱出口を確認
- (3)あわてて外へ飛び出さず

(総務省消防庁HP <https://www.fdma.go.jp/publication/database/jishin2jishin> より)

また、豪雨などで市町村から出される警戒レベルは5段階あり、警戒レベル4までに必ず避難が必要となっています。自分や家族を守るため、早めの避難を心がけましょ。

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保※1 せんきゅうあんぜんかくほ
〜<警戒レベル4までに必ず避難!>〜	
4	避難指示※2 ひなんしじ
3	高齢者等避難※3 こうれいしゃらうひなん
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)

内閣府HP 防災対策
避難情報に関する
ガイドラインの改定
(令和3年5月)より
<https://www.cao.go.jp/>